

内閣府特命担当大臣
野田 聖子 殿

「こども庁」の名称を求める会
「こども庁」への名称変更を求める関連団体・専門家ネットワーク

「こども家庭庁」の名称を、「こども庁」に戻すことを強く求める緊急要望書

私たちは、「こども庁」への名称変更を求める当事者団体および、それをサポートしている関連団体・専門家のネットワークです。

新設される庁について、当初の政府案では「こども庁」とされていた名称が、12月15日の自民党の会合で「こども家庭庁」に変更されたという報道が、突如なされました。

「子どもは家庭を基盤に成長する。家庭の子育てを支えることは子どもの健やかな成長を保証するのに不可欠」と、「家庭」を付け加える理由が説明されていました。

子どもの育ちにおいて家庭が重要な役割を担っていることは間違いありません。ですが、「家庭はあたたかい場所であり、子どもは家庭によって育まれる」という考えと現実の間には、ときに大きなギャップがあります。家庭の役割が強調されることでかえって追い詰められてしまう家庭もあります。家庭が加害行為の温床となり、そこから離れるほうが安全な子どもたちもいます。こうした家庭で苦しむ子どもや親等の声への配慮も必要ではないでしょうか。

そもそも「こども庁」という名称は、自民党の若手議員たちが子ども行政のありかたを検討する過程で、「家庭こそが戦場であり地獄だった」という、子ども時代に虐待を経験した当事者たちの声に耳を傾け、その思いを汲み取って生み出されたものでした。

「こども庁」という名称には、子どもを真ん中に据え、一人も取りこぼさないというメッセージが込められていたのです。

そして、そのメッセージは、自民党「こども・若者」輝く未来創造本部による〔「こどもまんなか」改革の実現に向けた緊急決議〕(6月3日)に引き継がれました。12月初めに示された当初の政府案も、これをベースに作られていました。

それにもかかわらず、名称という重大事項の変更について、再度の当事者への説明や議論のプロセスなく翻すのは、こうして声をあげてきた当事者たちに「あなたたちの声は取るに足りない」と言うに等しい行為であり、子どもの声を蔑ろにするものと言えます。

「子どもの声を蔑ろにしてつくられた庁」が子どもを蔑ろにしないと、どうして信じることができるでしょうか。

必要な家庭支援は新設される庁において、より充実させた施策が展開されることを願います。ですが、あくまでも「こどもまんなか」の理念を体現する名称については、当初案でもある「こども庁」に戻すことを強く求めます。家庭で苦しむ子どもや親等の当事者の声も踏まえた形で、名称変更を含めた、より充実した議論をお願いいたします。

家庭単位ではなく、子ども個人に目を向けてほしい！
「こども庁」への名称変更を求める関連団体・専門家ネットワーク（仮称）一覧

代表：

「こども庁」の名称を求める会
風間 暁（被虐待当事者、ひとり親、発達障害児の親）
Ayami（被虐待当事者）
Pulmo（被虐待当事者、宗教二世）
清水あきひと（高校生）
上澤 進介（二児の父）
真澄（被虐待当事者）
リン（12歳、不登校児）
安井 飛鳥（社会福祉士・精神保健福祉士・弁護士）

団体：

特定非営利活動法人 国際子ども権利センター
特定非営利活動法人 キッズ未来プロジェクト
一般社団法人 地域福祉推進機構
特定非営利活動法人 やんちゃ寺
NPO 法人 子どもの権利オンブズパーソンながさき
一般社団法人 神戸フリースクール
SingleParent 101
一般社団法人 ネット・ゲーム依存家族の会
特定非営利活動法人 全国ギャンブル依存症家族の会
一般社団法人 スワローポケット
特定非営利活動法人 ASK
公益社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会
一般社団法人 グレイス・ロード
新しい学びを支える親の会
おきなわ「非行」と向き合う親たちの会
みらい子育て全国ネットワーク
特定非営利活動法人 UPTREE
NPO 法人 ハッピーラボ
子連れ 100 人カイギ
NPO 法人 ぶるすあるは
一般社団法人 乳児用液体ミルク研究会
子育て環境向上委員会@中野
青い鳥グループ
SIESTA
特定非営利活動法人 ナルミーランド

専門家：

上野 千鶴子（社会学者・東京大学名誉教授・認定 NPO 法人ウィメンズアクションネット
ワーク（WAN）理事長）
工藤 晋平（名古屋大学 学生支援本部アビリティ支援センター 准教授）
黒川 駿哉（児童精神科医・慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室 特任助教）

黒沢 颯三（独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター 神経科主任部長）
信田 さよ子（臨床心理士・公認心理師）
穂田 里香（ソーシャルワーカー、武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科 教授）
友野 清文（昭和女子大学 教授）
松本 俊彦（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長）
丸山 泰弘（立正大学 法学部 教授）
安富 歩（東京大学 東洋文化研究所 教授）
和田 一郎（花園大学 社会福祉学部 教授）

支援者：

雨宮 麻衣子（日野市立滝合小学校 養護教諭）石崎 陽子（長野中央病院 看護師）
市川 恵美子（東北大学病院 看護師）
一林 大基（精神科医・バーチャル精神科医いっちー）
伊藤 絵美（臨床心理士・公認心理師）
上田 宗胤（まつもと医療センター小児科 小児科医）
岡 琢哉（児童精神科医）
緒方 悠詠（Our Earth Song Festival 代表）
長村 幹央（東京都立松沢病院 看護師）
小野 澤由貴（訪問看護ステーション デライト江戸川 看護師）
加藤 クミ子（保育士・心理カウンセラー・発達支援ファシリテーター）
川野 恵子（看護師）
葛巻 史周（昭和大学附属烏山病院 看護師）
栗原 由美子（看護師）
黒田 啓介（弁護士）
鴻巣 麻里香（ソーシャルワーカー・KAKECOMI 代表）
小久保 良子（リンクよこはま訪問看護ステーション 看護師）
後藤 奈穂子（訪問看護ステーション デライト江戸川 看護師）
斉藤 大法（精神神経科医・要唱寺 住職・蓮 実践心理学研究所 所長）
佐藤 倫子（弁護士）
鮫島 さおり（鹿児島みなと病院 看護師）
茂田 里子（並木小磯診療所 訪問看護師）
紫牟田 かな子（社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師）
志村 哲祥（医療法人寿鶴会菅野病院精神科 精神科医）
白坂 知彦（手稲溪仁会病院 精神保健科）
城間 勇（NPO 法人 Y-ARAN（横浜依存症回復擁護ネットワーク）理事長）
菅原 直美（弁護士・保護司）
高橋 幸子（産婦人科医）
橘 聡子（昭和大学附属烏山病院 看護師）
舘坂 絵美（昭和大学附属烏山病院 看護師）
谷輪 加奈子（保健師・公認心理師・看護師）
塚越 拓美（昭和大学附属烏山病院 看護師）
常岡 俊昭（昭和大学 医学部 精神医学講座 講師）
友田 明美（小児神経科医・福井大学 子どものこころの発達研究センター長）
鳥谷 玲奈（精神科医）
永井 いづみ（訪問看護ステーションデライト江戸川 看護師）
中村 純子（駒木野病院 薬剤師）
新村 一樹（昭和大学 医学部 精神医学講座 助教）

野々村 千晶 (NPO 法人 スマイルリング 理事)
野呂 尚子 (鹿児島大学保健学科成育看護学講座事務 助産師)
橋本 久美子 (社会福祉士・保護司)
平本 和弘 (一般社団法人 Miraie 理事長)
藤原 秀博 (心理カウンセラー・暴力的「ひきこもり支援」施設問題を考える会 共同代表)
堀田 豊稔 (NPO 法人 スマイルリング 代表)
堀江 朋子 (訪問看護ステーション デライト江戸川 所長補佐)
松永 優子 (めじろそらクリニック 院長)
水野 有紀 (昭和大学附属烏山病院 精神保健福祉士)
森山 沙耶 (臨床心理士・公認心理士)
山崎 和恵 (訪問看護ステーション デライト江戸川 所長・看護師)
山本 和弘 (昭和大学横浜市北部病院 精神保健福祉士)
吉江 隆範 (薬剤師・株式会社メディカルインキュベーションシステム執行役員)